

# 令和4年度 大正中央中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

### 2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようになる。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

## 3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るために、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

## 4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

# 令和4年度 大正中央中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

## 1 全国学力・学習状況調査

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			国語	数学	理科	国語	数学	理科
3 年	学校	64	63	45	43	6.3	13.1	4.5
	大阪市	—	66	50	46	5.5	12.2	4.4
4月29日	全国	—	69.0	51.4	49.3	4.3	10.8	3.4

## 2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	63	51.0	46.0	48.6	50.6	43.0	12.6	7.0	11.8	5.5	11.9
	大阪市	—	53.4	54.7	54.9	55.8	53.7	11.9	4.3	9.4	5.3	6.8
9月6日	大阪府	—	53.8	55.4	56.0	55.9	54.2	12.1	4.6	9.6	5.8	7.1
2 年	学校	45	49.4	32.3	34.0	45.7	38.4	14.5	9.9	24.4	12.8	11.7
	大阪市	—	58.7	41.3	48.1	53.0	55.2	8.6	8.2	15.8	8.8	6.4
1月11日	大阪府	—	59.6	43.3	49.0	52.9	56.1	8.5	7.7	16.1	9.3	6.5
1 年	学校	71	50.4	48.4	48.2	54.0	48.7	11.6	8.1	9.1	10.4	7.8
	大阪市	—	57.8	51.8	54.2	55.0	58.3	12.1	4.9	7.6	5.3	5.1
1月11日	大阪府	—	58.6	—	55.0	—	59.1	12.5	—	8.0	—	6.8

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は物理的領域を選択

※ 2年生の社会はB問題を選択 2年生の理科はA問題を選択

※ 3年生の理科はC問題を選択

## 3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】  (スコア)	聞くこと 【リスニング】  (スコア)	書くこと 【ライティング】  (スコア)	話すこと 【スピーキング】  (スコア)	
							【リーディング】  (スコア)
3 年	学校	64	82.2	93.2	124.1	75.9	
10月21日	大阪市	—	102.8	105.4	152.4	96.6	

## 4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力 (kg)	上体 起こし (数)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (点)	20m シャトルラン (回)	持久走 男子1500m 女子1000m (秒)	50m走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	ハンドボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
2 年 男 子	学校	27.90	24.95	43.67	47.29	71.55	—	8.51	188.77	23.68	39.42
	大阪市	28.88	26.10	42.66	51.66	77.74	—	8.08	196.13	19.98	40.80
	全国	28.99	25.74	43.87	51.05	78.07	—	8.06	196.89	20.28	41.04
2 年 女 子	学校	24.97	18.86	43.80	42.72	38.70	—	9.52	151.43	11.64	40.78
	大阪市	23.08	21.91	45.40	46.34	51.72	—	9.07	166.28	12.26	47.00
	全国	23.21	21.67	46.07	45.81	51.60	—	8.96	167.04	12.45	47.42

# 令和4年度 大正中央中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

## 調査結果から

### 【成果と課題】

#### ○全国学力・学習状況調査結果

<国語>全国と比較して、全領域で平均正答率が下回っている。特に「書くこと」の領域においては、-15.2Pと大きく離れている。

<数学>平均正答率が大きく下回っている中、「データの活用」については、全国平均並みであり、大阪市を0.4P上回っている。

<理科>全国と比較して、全領域で平均正答率が下回っている。特に「粒子」を柱とする領域においては、-12.1Pと大きく離れている。

<生徒質問紙より>生徒の「自己有用感」「自尊感情」の項目が低く、「学校が楽しい」と回答している生徒の割合も低い。また、「1日の家庭学習時間」も少なく、それに反して「1日のスマホやゲーム等の利用時間」が多い。

#### ○中学生チャレンジテスト(3年生)

<成果>平均点は大阪府と比較して、すべての教科で下回っているが、**昨年度の対大阪府比を比較**すると、英語を除く**4教科で向上**している。特に**国語科では、0.05ポイント上昇(0.90→0.95)**しており、少しずつではあるが大阪府平均に近づいている。

<課題>**英語科**において得点分布をみると、本校は**25点～29点に集中**しており、特に「読むこと」に課題が見られる。

#### ○大阪市英語力調査(GTEC)

<成果>大阪市のスコアと比較すると、**すべての項目**で対大阪市比が**0.8**となっているが、「聞くこと」については**0.88**と、9割に近いスコアを取ることができている。

<課題>「話すこと」は対大阪市比が**0.79**と、最も低い。

#### ○中学生チャレンジテスト(1年生・2年生)・中学生チャレンジテストplus

<成果>平均正答率は、1,2年生ともに大阪府と比較しても大きく下回っているが、**1年生の理科**については、**ほぼ大阪市平均並み**の結果(**対大阪市比 0.98**)であった。

<課題>**2年生の結果が大阪府と比較しても大きく下回っている**。特に**数学と英語**は大阪府の平均の7割以下であった。

#### ○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

<成果>男子の「ハンドボール投げ」女子の「握力」は全国平均を大きく越えている。また、男子の「長座体前屈」は、**ほぼ全国平均並み**の結果であった。

<課題>男子の「反復横跳び」「50m走」、女子の「50m走」「20mシャトルラン」が他の種目に比べて低い。今後は、生徒の**瞬発力と持久力**の向上に努めなければならない。

### 【今後に向けて】

本校の生徒は、①理解する力が弱く、自分で考えることが苦手 ②分からぬところあきらめてしまう(集中力が持続しない) ③自信がないのか、発表など自ら行えない生徒が多い という課題がある。そこで、これまでの調査結果を参考にして**学校教育改善「アクションプラン」を策定**し、取り組み内容を明確化して、教育活動を推進している。

今年度は「生きる力・夢みる力の育成」を重点目標に、学力向上に関わり、「**向き合う力～生徒の課題に向き合う・生徒が課題に向き合う～**」を研究主題として、生徒が進んで自分の課題に向き合い、考えを伝えるための指導法や共同学習へのアプローチについて、教職員の向き合い方について共有できるような取り組みを進めいく。

また、これまでの調査結果からも、本校の生徒はここ数年、すべての教科で正答率が低い傾向にある。この課題に対して、生徒が自分の考えを伝え合うことだけで終わらず、課題に向き合う活動を通して、生徒が自分自身の考えの深まりを実感するための指導方法の工夫とともに、**生徒の読解力の向上に取り組んでいく必要がある**と考える。